

第2期(後期)「にいがた福祉リーダー塾」

主催:新潟県労働者福祉協議会

共催:新潟ろうきん福祉財団

～労働者自主福祉運動の新たな発展を期しての人材育成をめざして～

2014年11月14日・15日の二日間に渡り、第2期にいがた福祉リーダー塾(後期)を開催しました。後期のプログラムは、前期日程の学習成果と労働者自主福祉運動を推進するに当たり、事業団体の理解を深めて、グループミーティング中心となっています。第2期修了生は、第1期後期の未受講生も含めて17名の塾生が「修了証」を手に入れました。

■ 第1講座(その1)

「労働金庫運動の基本方向と課題」

この講義では、労働金庫の設立経緯(歴史)の再確認をして、労働組合がつくった助け合い、支え合いの協同組織金融機関＝ろうきんは、自分たちの金庫として労働組合とろうきんが「お客様」と「業者」の関係から「共に運動する主体」へ再度意識をしていくことが大切であることを共有しました。



■ 第3講座

「グループミーティング」

(課題)

- 1G「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向けた労働組合・労福協の役割」
- 2G「労福協の地域運動の実現課題は何か」
- 3G「労働組合と労働者自主福祉運動との関係のあり方」
- 4G「労福協とNPO等市民活動団体との連携と共同をどう進めるか」

■ プログラム

《11月14日(金)》

・第1講座

「労働金庫運動の基本方向と課題」
「全労済運動の基本方向と課題」

・第2講座

「ビジネスユニオニズムからソーシャルユニオニズムへ」

《11月15日(土)》

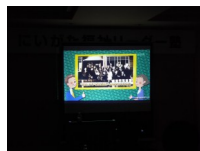
・第3講座

グループミーティング

■ 第1講座(その2)

「全労済運動の基本方向と課題」

この講義では、火災共済(助け合い運動)の歴史を学び、新潟大火時の県内労働組合からの共済金支払への協力、現在の総合生協経営政策について、幅広い視野から労働組合との関係性についてDVD視聴も織り交ぜながら学びました。



これまで座学で学んできたことをグループディスカッションを行いながら、一定の結論を導き出す方法を学びました。ブレインストーミング法やKJ法を駆使して、最初は議論参加に不安を抱いていた塾生も最後には各グループ共にいい発表ができていました。



■ 第2講座

「ビジネスユニオニズムからソーシャルユニオニズムへ～働くことを軸とする安心社会の実現に向けて～」

本題に入る前の社会情勢の話が迫力ある声で、詳しく講義いただきました。日本社会は持続可能ではないこと、人口減少問題、富の配分の歪み・・・雇用の劣化、深刻な貧困問題等々、豊かな日本と思われがちだが、疲弊きまっているこの世の中を変革していかなければならないことを確認しました。



講師陣

・第1講座

新潟県労働金庫理事長
江花 和郎 氏
総合生協共済事業部長
菊地 正文 氏

・第2講座

中央労福協副会長
山本 幸司 氏

・第3講座

(ファシリテーター)

県労福協事務局長
大瀧 幸二 氏
県労福協事務局長
小野塚勝一氏
ろうきん財団室長
中村 昇 氏
ろうきん財団事務局長
村田 和也 氏

編集後記

第2期修了生は、17名。新たに労働者自主福祉運動をけん引するリーダーが誕生しました。このリーダーのみなさんが、ブリッジビルダーとして県内各地で運動を広げていくことで共助の輪は確実に広がりを見せます。第1期生に比べて若者が多くグループ討議もうまくいくなあと心配をしていましたが、みなさん積極的に自分の意見や経験を伝えていい勉強になったのではないかと思います。「修了証」は手にしましたが、最後の難関「研修レポート」が残っています。全日程で学習したこと+αで、いいレポートに仕上がることを期待しているところです。(M.I)